

見つけて、調べて、対処する「レイミーの AI 病虫害雑草診断」

基本情報

組織名：日本農薬株式会社
 担当者名：スマート農業推進部
 課長 谷口健太郎 氏
 使用 API：
 ・病虫害発生予察情報 API
 開発体制：
 実務：専門者 3～4 名
 開発：株式会社 NTT データ CCS
 リリース時期：
 2020 年 4 月
 解決したかった課題：
 ・生産者や農業関係者が病虫害
 雑草の防除に困らない世界を
 実現したかった

レイミーの AI 病虫害雑草診断



大好評！スマホで写真を撮るだけで
病虫害雑草を診断できるアプリ

30 作物の診断に対応

28万 ダウンロード

1100 以上の診断対象

ダウンロードはこちら



※2025年11月現在



スマート農業推進部 課長 谷口健太郎 氏

■ アプリケーションの概要

スマートフォンアプリ「レイミーの AI 病虫害雑草診断」は、AI を活用して作物の病虫害や雑草を診断できるアプリです。30 種類の作物に対応した AI 診断機能をはじめ、病虫害・雑草の図鑑機能、ビッグデータに基づき注意すべき病虫害情報を自動配信する AI 予察機能、農作業の記録機能など、農業をサポートする多彩な機能を備えています。

■ 開発の背景

生産者や農業関係者が病虫害や雑草の防除に迷うことのない世界を実現するためには、単なる診断機能だけでなく、病虫害に関する多様な機能を違和感なく統合する必要があります。また、農業分野では高齢の利用者も多いことから、誰にとっても直感的に使える UI/UX を設計することが重要でした。

■ 開発中に直面した課題

都道府県が発表する病虫害情報とアプリに登録されている病虫害名が一致しないという課題がありました。都道府県ごとに表記の揺れがあるため、注意報に掲載されている病虫害がアプリ内のどの病虫害に該当するのか判断しにくいケースがありました。現在、この課題を解決するため、時間をかけて対応表（マスタ）を作成しています。

■ 本アプリケーションの強み

レイミーの最大の特徴は、病虫害や雑草の管理に役立つ様々な機能を有していることです。「AI 診断」では病害・害虫に加えて「雑草」の診断にも対応しており好評を得ています。また、農薬メーカー6社、約400 剤から最適な農薬を紹介できるため、特定メーカーに偏らない中立的な農薬選択が可能です。加えて、設定した地域・作物から注意すべき病虫害を知らせる「AI 予察」機能により、発生前の予防対策を支援します。さらには、JA 全農の営農管理システム「Z-GIS」との連携により、レイミーで記録した多様なデータを集約し、Z-GIS上の地図で一元的に確認できるようになります。これにより、地域全体での営農管理に幅広く活用することも可能です。



■ WAGRI と API の利用によるメリット

アプリで得られた診断情報と API による外部情報を組み合わせて提示することで、利用者が注意すべき状況をより直感的に理解できるようになりました。例えば「近隣で診断件数が増加しています」+「注意報が発令されています」といった複合的な情報として示すことで、より分かりやすく、実用性の高い注意喚起が可能になります。

■ リリース後の反響について

2025 年 12 月時点で累計 28 万ダウンロードを突破しており、レイミーは多くの利用者に活用されています。県の最新情報をタイムリーに確認できるうえ、周辺地域の診断データもあわせて参照できるため、防除判断に非常に役立ちます。こうした利便性の高さから、アプリの中でも特に利用頻度の高い主要機能となっていると考えられます。

■ 今後のアップデート

気象情報や最新の防除情報をタイムリーに提供することで、利用者がより確実かつ効率的に病虫害管理を行えるようにしたいと考えています。

■ 担当者からのメッセージ

レイミーは、病虫害・雑草管理に特化した、無料で利用できる便利なツールです。2025 年からは Z-GIS との連携により活用シーンがさらに広がっており、現場での防除判断やデータ活用を一層支援しています。今後も機能改善と使いやすさの向上を進め、農業関係者にとって欠かせないツールへと成長させていきたいと考えています。

お問い合わせ先

WAGRI 運営事務局
 （農研機構 農業情報研究センター WAGRI 推進室）
 sh-wagri@naro.go.jp

WAGRI 公式サイト
<https://wagri.naro.go.jp/>

